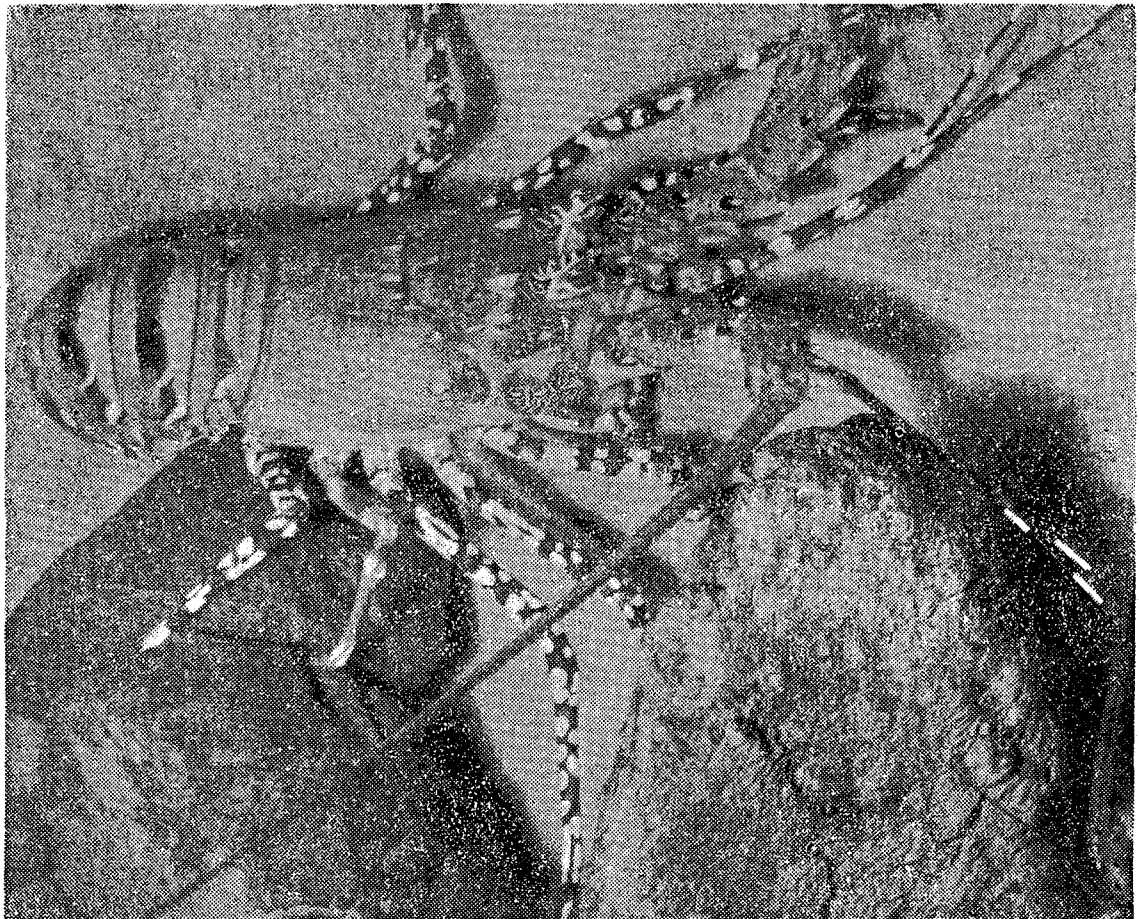


水拓

三月



兵庫県漁業協同組合連合会

第二卷

第八号

昭和三十三年三月十五日発行

(月刊每

回十五日発行)

一部十円



撮影 井伊 明

手紙は人と人を結ぶ、優しい鎖です。

いつまでも便りを交換することは、変らぬ信頼のしるしです。そして切手は、優しい鎖にそとつけられる美しいリボンにもたとえられるでしょう。

切手は、その国の特徴をあらわすものですが、写真のように、他の国では魚たちを切手にうまくあしらって、海への郷愁をそこはかとなく感じさせてくれますけど、日本にはあまり見当りません。四面海をめぐらせているのに、魚の切手がないとは、海に関係のある者にとつて、はなはだ淋しいことといえましよう。

偉人の肖像も結構ですが、こうした自然への目を、とくに海への目を大きく開いてもらいたいものです。

Y

目次

表紙写真	
“にしきえび”	
撮影 井伊 明	
第三回全国大会に県代表 農林大臣賞受賞……………	2
包装の規格をきめる……………	4
但馬からの対馬出漁……………	4
ラジオ番組……………	4
水産振興基金	
収支現計表……………	5
“聞きある記”	
イカナゴの巻その2……………	7
第五回県下漁業協同組 合長大会の状況……………	9
インドネシヤ水産情報	
第二号……………	9

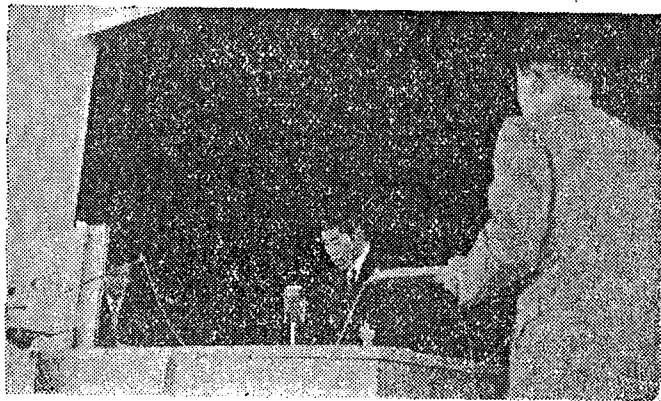
第三回全国大会に県代表 農林大臣賞受賞

二月二六日から二八日までの三日間に亘つて、東京都農林省大会議室で開催された第三回水産業技術改良普及研究発表全国大会に、県代表として柴山港青少年クラブ大西巖君（二三才）と仮屋水産4日クラブ武田玉之君（二二才）が出場し、大西君は「ヨコワ」曳縄漁業の改良、武田君は「あさり貝桁網の改良」を発表したが、大西君は漁業部門で時の農林大臣賞を獲得した。

本年の全国大会出場者数は四二名で、養殖部門一三名、加工部門二名、漁業部門一七名、各部門の最優秀者に農林大臣賞が授賞されたわけで発表者数も多く、研究実績のレベルも高い漁業部門で農林大臣賞を得たことは、意義深いものがあつた。

各部門入賞は次のとおりである。
養殖部門

- 農林大臣賞 宮崎
気仙沼市松岩漁業青年会
松本 義術（三六才）
- 経営面よりみた二段式かき養殖法について
優 秀 賞 東京



壇 上 の 大 西 巖 君

大森貝類研究会

相沢 秀男（二六才）

東京湾におけるかき養殖法の改良について

優 秀 賞 愛知

平井のり研究会

森田 留治（三一才）

漁場におけるのりの人工種付について

加工部門

農林大臣賞 鳥取

網代加工利用研究会

川戸 栄一（四六才）

漁業部門

農林大臣賞 兵庫

柴山港青少年クラブ

大西 巖（二三才）

「ヨコワ」曳縄漁業の改良

優 秀 賞 北海道

室蘭市栄町青年漁業研究会

網干昭太郎（二五才）

すすき延縄漁業の餌料の改良に関する研究

優 秀 賞 三重

有滝漁業研究会

三宅 安治（二四才）

漁場探知に関する漁場図作成

優 秀 賞 京都

江尻漁業研修会

黒田克太郎（三二才）

築磯漁業における鯨防禦網の研究と改良

また農林大臣賞を得た「ヨコワ」曳縄漁業の改良の概要を紹介すると次のとおりである。

一 柴山港の概要

柴山港は、兵庫県の北端に位し、山陰の避難港としてかなり有名な港である。柴山は、昭和三〇年町村合併で香住町に入つたが、柴山地区三部落の総戸数三五〇戸、その大部分は漁業、水産加工業、又は水産物仲

買に従事している純漁村である。

柴山港漁業協同組合の中核をなすのは、中型機船底曳網（四〇屯級）二六隻であるが、私たちが従事しているのは、二〜三屯級の小型動力船を使用するイカ・サバの一本釣漁業で、その隻数は約一三〇隻である。

二 ヨコワ曳縄漁業の概要

ヨコワの曳縄は、昔から行われているが、一本釣の主体はイカとサバであつて、漁場への往復に、ただ船を走らすだけではつまらないから、まアやつてみようか、という程度に軽く見られていた。

ヨコワの盛漁期は大休九月上旬〜十一月下旬、漁場は主として但馬沖合、時として隠岐附近まで出る。

漁具の構成は、船の両舷へ張出した長さ三mくらいの竹竿に一〇m内外の綿糸をつけ、その先に踊り板、一ヒロ内外のナイロンみち糸、さらに擬餌をつけて曳航する。

この漁業でもっとも重要なのは、擬餌をひく水深をヨコワの游泳層に合わせることで、擬餌が生きた餌と同じように振れることである。このように擬餌を誘導するのがこの踊り板の役目である。

三 研究の動機

前述のようにこの漁業は副業的存在であつたので、はじめは漁具も簡單でサバ釣の擬餌の親方みたいなものを五本も六本もひいたり、踊り板もカマボコ板に少し手を加えた程のものであつた。それが他処で使つてゐる道具を見習つてだんだん改良されてきたが、人によつて様子の形があり、どれが一番よいか分らない。同じように並んで操業していてもA船は三〇本釣るのにB船は三本のヨコワも釣りがねることがしばしばであつた。しかもそういうよい道具はかくして他人に見せない。

四 研究グループの編成

サバ・イカがよく釣れてるときはそれでも済んでいたが、昭和三〇年には春のサバ、夏のイカがさつぱり釣れない。但馬沖にいる魚はヨコワだけということになつた。そこでわれわれのクラブでは、グループを編成してヨコワの曳繩を徹底的に研究することにたつた。研究グループの編成ができたのは、昭和三〇年一月である。その構成は、漁業部員一〇名、五隻の漁船で研究を行い、記録は漁業組合の職員であるクラブ員

が担当した。

五 研究の方法

(一) グループは、まず、ヨコワの習性・生態・回遊などについて日本海区水産研究所の指導をうけた
(二) 年輩者を主とする討論会をひらいた。
(三) 以上による基礎知識をもとに五隻の漁船で問題ごとに同時操業を行つて一つずつ結論を出した。

六 踊り板の分析と曳航速度

各地で使用されている踊り板を比較した結果、舟型の踊り板が最もよかつたので、舟型を中心に改良することにした。このため板をA、B、C、D、Eの二六の要素に分けて研究した。曳航速度は、板の設計に大きな影響があるので、比較を容易にするため三・五ノットに一定した。(ハンδροグを用いて測る。)

七 踊り板の振れの研究

踊り板の振れによつて擬餌の運動を起してヨコワを誘うので振れは最も重要である。振れに係る部分を発見するため、要素をいろいろ変えて(アチコ

チを削つたり切つたり)実験した結果、GとG'の長さが振れを支配することを知つた。そこでグループのうちもつとも成績がよい板の寸法を標準とし、G・G'のみ上下五段階の寸法をもつて一斉操業を行つた。

G・G'の研究(1)

試験船	G	G'	漁獲(本数)
A	1.7寸	1.6寸	19
B	1.9	1.8	23
C	2.1	2.0	29
D	2.3	2.2	39
E	2.5	2.4	11

30年10月13日 {くもり、風SW-2
速力3.5ノット

G・G'の研究(1)

試験船	漁獲(本数)	備考
A	30	G—2.3寸、 G'—2.2寸
B	28	同業者最高22本
C	28	同業者最低6本
D	26	
E	28	

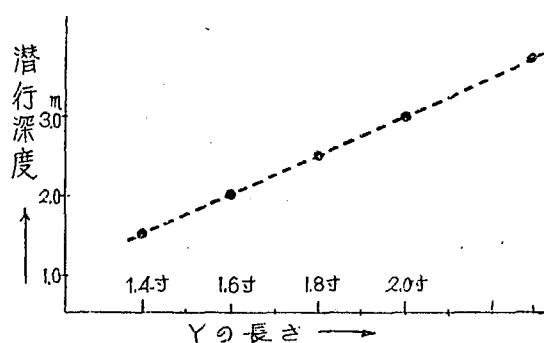
31年10月15日 {くもりに風SE-2
波浪2、速力3.5ノット

この結果、G—二・三寸、G'—二・二寸の板が最良であつた。これを確認するため、さらに五隻ともにG—二・三寸、G'—二・二寸の板で同時操業を行つたところ、非常な好成績を収めた。

八 踊り板の潜行深度の研究

こうするうちに漁期が終つたが、翌年にそなえて潜行深度を支配する要素の探究を続けた結果、これが要素Yであることを知つた。Yと潜行深度の関係を測つた方法は、柴山港内の水深が判つている深所で曳航して海底に当る場所の水深をもつて潜行深度とした。

要素Yの長さとの潜行深度



昭和三十一年の漁期に入つてYと漁獲の関係を究明することになり、Y—一・八寸を中心に上下五段階で一斉操業を行つた結果、Y—二寸、潜行深度三mの板が最高を示した。ところがここで新事実が気がついた。

それは深い板は日中はよく釣れ、浅い板は朝夕によく釣れることである。これはヨコワが朝夕には浮上り日中は沈むためと考え、再試験には時間を区切つて記録した。予想のとおり朝夕は浅い板、日中は深い板が好成績であつた。

要素Yの長さの研究 第1回 31年10月2日 第2回 15月5日

試験船	第 1 回			第 2 回				
	Y	潜行深度	漁獲 (本)	Y	漁 獲 (本)			計
					5-8時	8-15時	15-19時	
A	1.4寸	1.5m	36	2.6寸	29本	8本	14本	51
B	1.6	2.0	40	1.8	31	11	17	59
C	1.8	2.5	43	2.0	36	13	19	68
D	2.0	3.0	50	2.3	19	26	9	54
E	2.3	3.7	31	2.5	12	31	3	46

九 ナイロンの長さの研究

この結果、ヨコワ釣にはいつも浅いのと深いのと二種類の板を持つて出して使いわけようになつた。

こうして踊り板の設計についてはほぼ自信を得たのでみち糸ナイロンの長さについて研究をすることとした。従来はこの長さは二m前後であつたが、もつと短くすれば踊り板の振れをより適確に擬餌に伝えられると考えた。しかしまたヨコワが板に驚くから食を悪くするという意見もあつたので、二mから一・〇mまで五段階のナイロンによつて試験操作を行つた。この結果、意外にも一・三mの長さが最高を示した。

ナイロンの長さの研究

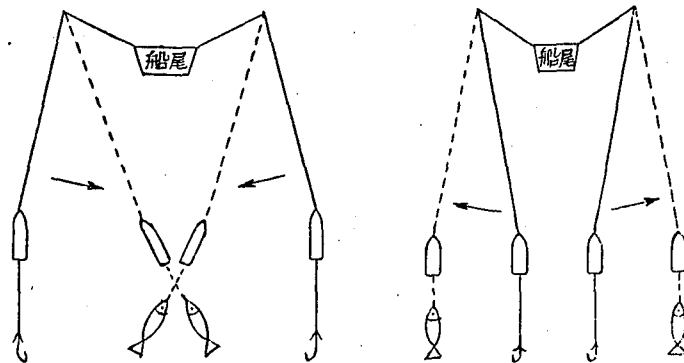
31年10月8日

試験船	長さ	漁 (本数)	備 考
A	1.0m	69	天候 くもり
B	1.3	80	風 SW-3
C	1.8	74	波浪 2
D	1.8	61	連力 3.5ノット
E	2.0	52	

一〇 曳航法の研究

従来の曳航法は、板を少しでも左へはり出すために、G'G'の差による板の偏りを利用して左右にG'G'が反対の板をひいて、曳航中の板が左右に広がるようにしていた。しかし

こうすると魚が掛ると板がひつくり返つて、中央へよりあい、もちあひとなつて魚をいためたり、釣落すことが少くない。これを防ぐためには板のひき方を左右反対にしてみたらと考え、従来の右の板を左舷で、左の板を右舷でひく実験を行つた。こうすれば曳航中は板が中央へよるが魚がかかると左右へ広がり、もちあひにならないのである。しかしこう



すると、食いが悪くなるおそれがあつたが、結果は改良曳航法がややよい傾向を示した。結局、魚の食いに

変りはないが、逃さないだけ改良曳航法がすぐれている結果となつた。

曳航法の比較研究

31年10月15日

試験船	方法	漁 (本)	備 考
A	改良	46	天候 晴
B		49	風 SW-3
C		46	波浪 2
D	従前	38	連力 3.5ノット
E		40	

この他、左右二本の間に短い糸で「中曳」をひくことを研究して、現在では三本曳きとしている。

一一 板の材料研究

板の材料としては桐を使つていますが、良材が入手しにくいので、ホオダラ、シイなどで試したが、やはり桐が最良である。

板が水を含むとクルイが生ずるので、塗料を塗るが、その材料としてろう・エナメル・ラッカー・化学うるしを比較した結果、化学うるしが最良であつた。

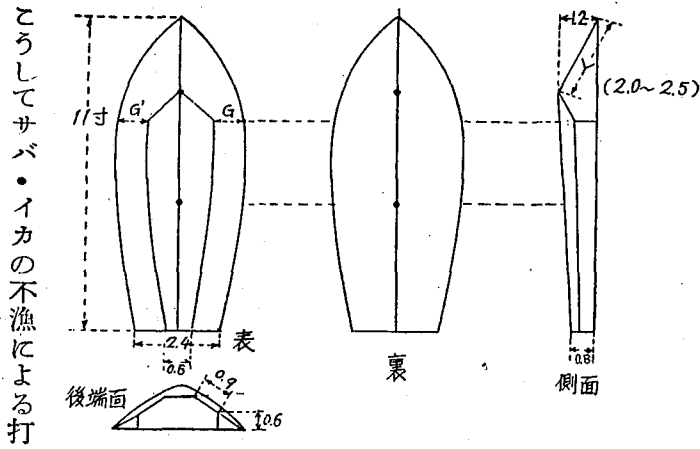
板の作り方では、野球のバットやスキーからヒントを得て、合せ板にしてクルイを少くしている。

一二 研究の成果

二年にわたる研究の過程で、明かにしたことはそのつど公開したので非常に好評を拍し、そのために一般の強い支持やよい助言を得ることができた。

この研究が成功したのは全くこれらの支持と助言の賜ものである。柴山におけるヨコワ漁獲高は、三一年には前年の三五%増を示している。

踊り板の設計(標準)



こうしてサバ・イカの不漁による打

撃をしることができた。

一三 今後の研究

最近小型漁船に高速ディゼルがつけられるようになり、速力が増大した。速力が大きくなると当然行動半径が増し、漁獲高を増すことができる。今回の研究は便宜上船速三・五ノットで行つたのであるが、今後は四ノット、五ノットと速力をあげたときの板について研究したい。また擬餌の研究にも手を着けたい。

但馬からの対馬出漁

香住町にて協議会

昨年の秋、但馬海区から、香住町漁協組所属船一七隻、浜坂漁協組所属船五隻計二二隻が、対馬海域に出漁しこのほど大半が帰港したので、北但農林出張所主催で、出漁者の協議会が三月十六日に開催された。

当日は、出漁者がそれぞれの体験から、今後の見通し方針などについて話合つたが、沿岸一本釣の不漁に悩む多くの漁業者が出漁者の話を熱心に聞き入り、対馬出漁に対する深い関心をみせた。現地では、ぶり(ヨコワ)曳縄釣とイカ釣が主で、とくにイカ釣については、明るい見通しであるが

中間業者に喰われてしまうので販売の方法を何とか早急に考えなくてはならないというのが、一致した意見であり、県の対策を要望する声もあつた。

包装の規格をきめる

イ、カナゴ包装研究会

去る三月七日、兵庫県水産試験場で、イカナゴ包装研究会が開催された。参加者は、明石、舞子、育波の加工業者、ダンボール製造者、県森本生産係長、小黑技師及び県水試係員で、従来からイカナゴ煮干品は、紙袋、木箱、ダンボールなどに入れられ販売されているが、最近とくにダンボールの使用が増え、その寸法も、所によつてまちまちになつており、容量その他でいろいろ不便なことがある。そこで今度これが規格の統一をはかることになつた。

規格をきめるのに問題となつた点は、
1、貨車積、船積、トラツク積などの場合、ムダなくびつたりと入るようにする。
2、積み方がきちんとして、しかもなるべく耐久力がある。
3、ダンボール原紙のきり方に、余分が出て、経費が高くつかないよ

うにする。

などであつたが、規格寸法を三つばかり算出して検討した結果

長さ 一尺五寸
巾 七寸三分
高さ 八寸八分

という規格型をつくりあげた。

また、箱の外側に、生産地、製造者名を、はつきりと記入することに申合せた。(Y)



ラジオ番組

ラジオ神戸 農漁村

朝6時10分〜25分まで

4月3日 漁船機関の話

杉本 技師

4月10日 浅海増殖五カ年計画について

森本 技師

4月17日 イカナゴの漁況と海況

堺 技師

4月24日 漁家の副食物について

その(一) 助川 技師

県下水産業振興の目的をもつて昭和二十六年設置した水産振興基金（県特別会計）の最近における收支状況並びに県の昭和三十一年度追加予算及び三十二年度当初予算に計上する該基金の支出について二月二十六日第七回水産振興基金審議会において審議、承認されましたのでお知らせします

水産振興基金審議会

水産振興基金收支現況表

事業別	年度別			備考
	26～30	31	計	
収入				
漁業権証券買上償還金	89,353,000		89,353,000	
漁業権証券利息	6,894,774		6,894,774	
預金利息	6,227,762	577,227	6,804,989	
合計	102,475,536	577,227	103,052,763	
支出				
瀬戸内海振興対策協会委託金	2,000,000		2,000,000	
水産業技術振興指導費	635,262	150,000	785,262	
漁村振興指導費	2,824,516	850,000	3,674,516	
漁村子弟育英資金	9,169,560	3,500,000	12,669,560	
対馬出漁基地建設費	200,000		200,000	
県漁連助成費	1,138,500	400,000	1,538,500	
許可料完納奨励費	2,319,555		2,319,555	
漁船保険加入促進費	7,142,591	2,162,000	9,304,591	
免許可料撤廃運動費	(11,700)		(11,700)	
漁礁設置助成費	260,000		260,000	
漁業信用基金協会出資金	5,480,420		5,480,420	{内立替分 3,104,420 立替分
漁港協会助成費	6,000,000		6,000,000	
県外出漁協会助成費	250,000		250,000	
漁村青年大会費	300,000	150,000	450,000	
水産会館建設費	220,853		220,853	
遠海出漁開拓試験補助	65,000,000		65,000,000	{内立替分 25,000,000
香住高校実習施設購入費	215,000		215,000	
水産増殖研究会分担金	300,000		300,000	
内水面漁連(協会)助成金	50,000		50,000	
内水面漁連貸付金	500,000	200,000	700,000	
猪名川養鱒場建設費	845,000	2,000,000	2,845,000	(貸付金) 立替金
水産会館竣工式経費	250,000		250,000	
合計	105,101,257	9,412,000	114,513,257	内立替金 34,949,420
一般基金貸付分戻入及び表				
漁業信用基金協会出資金	6,000,000		6,000,000	
水産会館建設費	10,000,000	5,000,000	15,000,000	
漁礁設置費	1,553,000		1,553,000	
猪名川養鱒場建設費	845,000		845,000	
(内水面漁連貸付金返済)		2,000,000	2,000,000	
合計	18,398,000	7,000,000	25,398,000	
年度末基金実残高		13,937,506		

付 記

- 1 ()内は内水面関係を示す。
- 2 昭和31年度分は昭和32.3.31現在の子想額を示す。
- 3 立替及び貸付金 36,949,420
戻入未収額(32年度以降戻入) 11,551,420
- 4 27~31年度の基金関係予算代額
基金支出額 77,563,837 (立替及び貸付分 36,949,420 を除く)
一般会計支出額 57,435,715

昭和31年度水産振興基金追加予算額

事業名	当初予算額	追加予算額	財源		摘要
			基金	一般会計	
漁村振興指導費	850,000	—	850,000	—	
漁村子弟育英資金寄附金	3,500,000	—	3,500,000	—	
漁船保険加入促進費	—	2,189,000	2,162,000	27,000	
県漁連助成費	—	400,000	400,000	—	
内水面漁連助成費	—	200,000	200,000	—	
内水面漁連貸付金	—	2,000,000	2,000,000	—	
水産業技術改良普及指導費	—	477,000	150,000	327,000	
県外出漁奨励費	—	150,000	150,000	—	
計	4,350,000	5,266,000	9,412,000	354,000	
一般会計より戻入 内水面漁連貸付償還金 水産会館建設費	5,000,000	2,000,000	2,000,000	—	
計	5,000,000	2,000,000	7,000,000	—	
31年度末基金予想残高			13,360,279		

昭和32年度水産振興基金予算要求額

事業名	予算要求額	財源		摘要
		基金	一般会計	
漁況予報費	150,000	150,000	—	
漁船保険加入促進費	1,308,000	1,281,000	(県) 27,000	
県漁連助成費	400,000	400,000	—	
内水面漁連助成費	200,000	200,000	—	
内水面漁連貸付金	2,000,000	2,000,000	—	
計	4,058,000	4,031,000	(県) 27,000	
一般会計より戻入 内水面漁連貸付金償還金 水産会館建設費	7,000,000	2,000,000	—	
計	7,000,000	7,000,000	—	
32年度末基金予想残高	—	16,329,279	—	

聞きある記

イカナゴの巻 その2

ク精気増す

かまあげを喰え

酒を酌げく助六

イカナゴのシンコ漁況についてわれらが兵庫県水産試験場では、去る三月四日に、速報第二号を関係先へ配布し、その漁獲予想をあきらかにした。それによると「産卵の状態はあまり良くなかつたが一月及び二月の海況に恵まれたため、稚魚が順調に育つていことがわかり、このままうまく行けば県下で二百万貫くらいの漁獲が見込まれる」とのこと。もちろんこれは予想にすぎないが、しかし速報第一号の頃よりかなり良くなつてきたことはたしかで、内海の関係者にとつて、まずは目出たいニュースといわねばならない。

ところで、漁があるからといつて、手放して喜んでよいものであろうか、すでに水揚を見ているフルセの浜における値段は、ところによつて一貫当り十六円という安値を記録したそうである。こう聞くと、血のメダリの少しくノロい漫坊にも「大漁貧乏」という言葉がピンと頭にひびいてこようというもの。そこで取あえずペンを担いで、コトの真相をノゾいて見ようというワケである。例によつてついペンが走りすぎたところはゴカンペンを願いたい 漫坊

明石の新浜海岸は、明石海峡をと
おる魚たちをグツとにらむのに格好
の場所である。

いまは潮流の激しい時刻であらう
か、風もないようなのに不規則な三

角波がしきりに立つて、それはいり

くんだ海面の下の流れを思わせ、ま
たスツキリしたイカナゴの姿態をも
連想させるようだ。

「フルセについて知りたいけど」

「それやつたら明石浦がいいやろ」といわれ、トコトコきてみるとおだやかな春の海を背景に、明石浦漁業協同組合の事務所はなかなかしつかりしたよい建物である。

戸をガラリと開け、コンニチワと声をかけると、顔見しりの村上さんと視線が合った。彼氏ニヤリと笑つてオイデオイデをする。

カギの手に曲つて、スリツバにはきかえてあがる。

「フルセのことか？」

大きな身体で察しが早い。

「どうです、漁は？」

「ウチは去年より悪いよ。淡路の東浦はいいらしい。」

「値段が安いというけど」

「去年の半値やね。貫当りマア三十五円というところだが、平均この船で一隻あたり日に四十貫くらいの水揚げで、千三百円見当なんや。漁場が須磨沖だから油代に千四円はい

るし困つたことなんや」

「そんなら出漁するだけムダやないの」

「いい船もあるから一がいにはいえんけど、損が多いね。何しろ閑漁期開けの収入源がこんなでは思いやられる」

潮風の中、セリできたえた村上さ

んの声は太くて通りがよいのに元気がなく、沈痛な表情である。組合職員として漁家の生計がとくによくわかるからだろう。

「水産試験場では今年のフルセのアップラのは少し遅れると発表しているけど」

「そうやね、少し遅れてるね。それに三重県のいいフルセが市場へでているので、それが値段にコタえるらしいんだ」

「するとフルセの操業はなるべく遅らせた方がよいね」

「今年が遅らせたよ、水産試験場で会議もしたしね。しかしこんな値ではかなわんな。あれは二月の中旬やつたけど、大阪の荷受会社に出荷したフルセの釜揚げ四千貫が売止めになつた時にはギョツといつたものだ」

「貫当り十六円相場があつたというけど」

「あれは淡路だよ。とにかくこんなことでは困るね」

「フーと長大息をして」

「あんたの近くの小売市場では、いくらしている？」

「フルセは生で百匁二十円さ」

「生産者と消費者の価格には、ずい分と開きがあるものだな」

背後に誰か近づいてくる気配がし

た。クルリと振りむとと
「ヤアなんかね今日は？ フルセのこと？」

英組合長である。英と書いてハナブサと読む。オールド・ファンには往年の名女優、英百合子を思い出させるかもしれない。ところで村上さんも、正千代という名前で、これも侍ニツポンの歌で知られた、新納鶴千代を思い出させるようだ。それはともかく、英さんはドツシリとした厚みのある風格があつて、明石市会でも重要な存在である、聞いてい

る。
「イカナゴの値段が安いのは全く困るんですな。仕方がないといえはそれだけの話ですが、しかしなんとかが解決策はあると思うんです。イカナゴには脂肪やビタミンガとても多いとのこと、しかも安いときてますから、いかなければ理想的食品ですよ。だから流通とか加工の面を抜ければよく売れる筈なんです。やり方も悪い、宣伝もしない、ではダメですから、なんとか大きな団体の力でやらねばいけないですな、イワシと共に内海の大きな宿題ですな」
さすがに英さんは良く考えている。ユツクリと物静かな話しぶりて人をソラさない、

「もう少しするとそろそろ出演するんですが皆一生懸命です。そこやここから一斉にイナゴのように出ていくのを見ると、一貫匁三十五円なんて腹が立ちますよ」

さもあらんと漫坊も思わず暗然とした。

熱いお茶をすすりながらフと外を見た目に、むこうの船の陰から現われたメガネをかけた、一見して風流の心得ありげな人が写つた。

「アレツ、助川さんですよ。丁度いい。イカナゴの栄養について聞いてみたら」

× × ×
助川さんとは、水産試験場にさる人ありと知られた助川製造課長のことである。冠句作家としてはすでに有名で、川柳、独々逸、民謡と何でもござれ、号を助六とは知る人ぞ知るところのものだ。

「イカナゴの栄養ですか？ チョツと書きますかな」

傍のザラ紙に鉛筆でスイスイ書く「そんなの頭に入つてゐるんですね」「商売々々。忘れるものですか」

品名 ビタミンA B
イカナゴ

内臓 二、六〇〇〜五、〇〇〇 三三〇〜三三〇
筋肉 三三〇 三三〇〜二六〇

チーズ 一、〇〇〇 〆〇〇
卵黄 二、〇〇〇 三〇〇
ウナギ 一、〇〇〇 一〇〇
サンマ 一六〇 五〇
ドジョウ 七〇〇 六〇
牛肝臓 五、〇〇〇 二、〇〇〇

「どうです。ビタミンAは牛の肝臓と同じくらいありますからね。いまでもそうですが、或る栄養研究所の出した本に、イカナゴにはビタミンがないようになってましたけどあれなんかウソですよ。全く人をバカにしています」

「栄養のよいのはいつ頃のが一番ですかね」

「やはり四月の中旬以後、たくさんとれる時が最高です、何しろこの調査にはヘタバリましたネ。淡路の福良に泊りこみで、毎日山を歩いて越しては阿那賀に通い、一日に五百尾の体長、体重を一つ一つはかりましたネ。一カ所では資料になりませんから、各地でやらねば第一、信用できない資料ではおよそダメです」

「ハハア、簡単な数字でも、それがでるまでには大した苦勞があるものですよ」

「そりや大変ですよ、助川さんときたらメシも忘れてやつてますから」「アレツ村上さん知つてたの」

「それくらい知らなくちや、ヘツへのへですよ」

「しかし栄養の一番いい時が、一番値が安いとは、これまた皮肉きわまりですワ」

「とにかく、いままでの釜揚げと煮干品だけではいけないです。他の副食品はみなウマくなつてきてますしそれによく宣伝していますよ。味の素がよく売れば煮干イワシを使うのが減るだろうし、同じ水産食品でもカマボコなどはジャンジャン広告して売つてるし、そうすると弱いのはこちらだけということになりますネ。だから先日、加工研修会を明石市の主催でやつて大いに加工改良の必要性を強調したんです。何しろ学童給食、工場給食には、全然使われてないとこれは吉中技師の調査です」

ここまでくると問題の焦点が、だんだんはつきりしてきたようだ。それと共に、年を追つて進んで行く社会の流れの中で、漁業だけが取り残されていような淋しさをしみじみと覚えるのは、ただに漫坊一人のみではないだろう。

× × ×
礼を述べて外へ出ると、すぐ横にささやかではあるが、キッチンとした

お宮さまがまつられてあつた。風が出て、干された網が音もなく揺れているので、思わず神に手を合せ、今後の幸を心から願わずにはいられなかつたのである。

かまあげの白さをつつむ市場籠

イカナゴの値は忘れてるただうまし

かまあげに御飯をかえる子の育ち

目秤りのイカナゴの艶こぼれおち

板前もかまあげを喰う晩の飯

貰われた子もかまあげをたんと食へ

イカナゴは精気を増すと妻真顔

かまあげにうっかり酒の量がすぎ

イカナゴの季節にさとの母を呼び

かまあげがあつて女房の留守もよし

精気増すかまあげを喰え酒を酌げ

かまあげを好きと知られて強い

られる

これは、その折、無理をいつて頂いた助六宗匠の句である。紙上から御厚意を謝する次第である。

(三二二、三、三)

第五回県下漁業協同組合長大会の状況

第五回県下漁協組合長大会は、二月廿五日県立水産会館四階で行われた。県漁連三浦会長の挨拶、阪本兵庫県知事の挨拶に始まり、三浦会長が議長に選任せられて議事を進めて行つた。当日の議案は次のとおり

- 水質汚濁防止の立法化の貫徹について
- 海水汚濁対策について
- 香住高等学校練習船の建造促進について
- 瀬戸内海小型機船底曳網漁業における漁船の制限トン数の撤廃及び馬力制限の更改について
- 農林漁業振興資金貸付枠増額及び対象事業拡大について
- 漁業取り締りの強化について
- 漁業者の健康保険組合の設立について
- 漁業協同組合に対し事務所建設資の途を開く件

各議案とも万場一致をもつて可決され、後日関係方面へ陳情請願する事になつた。議案審議終了後、庄司嘉氏の「漁業協同組合の経営について」との講演があり、三浦会長の音頭とりで県下漁業協同組合長大会の万才を三唱して盛会裡に終つた。

インドネシヤ水産情報第二号(抜粋)

—インドネシヤの漁獲は増加している—

F・A・O(国連食糧農業機構)で刊行された最近の漁獲統計年報によると、世界の漁獲高は、一九四八年から四〇%以上多くなつてゐる。

インドネシヤに関しては一九三七年の四七二、〇〇〇トンから六五一、〇〇〇トンに増加している。

一九五五年における日本の水揚は四、七二〇、〇〇〇トンで、日本に次ぐアメリカの水揚二、六八七、〇〇〇トンを二倍近くもリードしている。

一九五五年におけるアジアの総漁獲高は一一、二八〇、〇〇〇トンで、一九三八年からみると二八%を上廻る増加ぶりである。

アジア諸国における漁獲の増加状況は、次のとおりである。

国名	一九三八年	一九五五年
フィリッピン	三七五、三〇〇	一三三五、三〇〇
インド	七四四、〇〇〇	一八三九、〇〇〇
パキスタン	二四三、〇〇〇	一、二七〇、九〇〇
タイ	一六一、〇〇〇	一、二二三、〇〇〇
オーストラリア	三三〇、五〇〇	一、五二〇、一〇〇
ニュージーランド	二七、〇〇〇	一、三九、二〇〇

なお、大陸又は地域別の数字を比較すると次のとおりである。

地域	一九三八年	一九五五年
世界総漁獲	一	一九五五年
アフリカ	四四〇、〇〇〇	二七、七二〇、〇〇〇
北アメリカ	一五〇、〇〇〇	一、六二〇、〇〇〇
南アメリカ	二三〇、〇〇〇	三、八〇〇、〇〇〇
アジア	九、三五〇、〇〇〇	七六〇、〇〇〇
ヨーロッパ	五、五四〇、〇〇〇	一一、二八〇、〇〇〇
オーストラリア	八〇、〇〇〇	七、六五〇、〇〇〇
ソ連	一、五二〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇
		二、五〇〇、〇〇〇

みんなの信漁連 みんなで利用

兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193
但馬支所 香住町字中浜頭 香住125

日用品のお取次も

兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥3424—5
明石油槽所 明石市船町 明石3207
富島油槽所 北淡町富島 富島 66
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

購買品は系統利用

但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 次

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区
新在家町

兵庫県立水産会館

電⑤8301(事務)
電⑤9563(宿泊)